

報道発表資料
平成29年11月1日
福岡管区気象台

九州北部地方は10月の降水量が最も多くなりました
～63地点で10月の月降水量が最多～

10月の月降水量は、九州北部地方（山口県を含む）では記録的に多くなり、104地点中63地点で最多となりました。これは、前線が明瞭となり低気圧の活動が活発となったこと、および台風が影響したことが要因と考えられます。

1 九州北部地方（山口県を含む）における10月の記録の更新状況

- ・月降水量の多い記録第1位 63地点（104地点中）
- ・月降水量の九州北部地方（山口県を含む）地域平均平年比 343%（過去最多）

観測値の詳細については別紙ア、イをご覧ください。

2 降水量が多かった要因（別紙エもご覧ください）

フィリピン付近の積乱雲の活動が活発になり、この海域で上昇した空気が日本の南東海上で下降気流をもたらし、この付近にある太平洋高気圧の勢力を強め、九州北部地方（山口県を含む）には南から暖かく湿った空気が入りやすくなりました。このため、前線が明瞭となり低気圧の活動が活発となったこと、および台風が影響したことが要因と考えられます。

（注）地域平均平年比の詳細については、別紙ウをご覧ください。

本件に関するお問い合わせ先

観測値について：防災調査課	電話：092-725-3614
要因について：地球環境・海洋課	電話：092-725-3613

別紙

ア 10月の月降水量の多い方からの1位を更新した地上気象観測地点

県	観測地点	月降水量 (mm)	平年比 (%)	10月の これまでの1位		統計開始年
				月降水量 (mm)	年	
山口県	下関	289.5	412	278.7	1945	1883
	萩	324.5	350	277.0	2013	1948
	山口	340.0	428	245.5	1998	1966
長崎県	平戸	326.5	345	316.3	1951	1940
	佐世保	271.5	313	263.0	1961	1947
佐賀県	佐賀	278.0	368	256.9	1938	1890
大分県	大分	620.5	513	519.5	2004	1887
熊本県	阿蘇山	358.0	273	347.1	1938	1932

イ 10月の月降水量の多い方からの1位を更新したアメダス観測地点

県	観測地点	月降水量 (mm)	10月の これまでの1位		統計開始年
			月降水量 (mm)	年	
山口県 (15)	油谷	302.5	255.0	2004	1976
	篠生	316.5	286.0	1998	1981
	徳佐	343.0	302.0	2004	1976
	羅漢山	464.0	389.5	2013	1976
	秋吉台	335.0	247.0	2004	1976
	広瀬	467.5	322.0	2013	1976
	豊田	335.5	241.5	2013	1976
	和田	400.5	285.0	2001	1978
	岩国	441.5	306.0	2001	1976
	防府	348.5	232.0	1998	1976
	下松	442.5	254.0	1998	1976
	玖珂	430.0	329.0	2001	1977
	宇部	292.5	186.0	2004	1976
	柳井	420.5	284.0	1998	1976
	安下庄	541.0	330.0	1998	1976
福岡県 (10)	宗像	246.0	232.0	2004	1976
	空港北町	272.0	145.0	2013	2006
	行橋	364.0	286.0	2004	1976
	博多	263.0	262.0	2004	2003
	太宰府	271.5	252.5	2013	1977
	朝倉	295.5	223.0	1981	1976
	久留米	275.5	229.0	1981	1977
	耳納山	233.5	221.0	1981	1976
	黒木	304.5	233.0	1981	1976
	柳川	244.0	241.0	1981	1976
大分県 (13)	国見	462.0	326.0	1998	1977
	豊後高田	425.5	292.0	2004	1976
	耶馬溪	459.0	364.0	2004	1976
	院内	449.5	403.0	2004	1976
	杵築	467.5	296.0	2004	1978
	武蔵	416.0	328.0	2004	1976
	玖珠	368.5	267.0	2004	1976
	湯布院	409.5	375.0	2004	1976
	佐賀関	462.5	449.0	1998	1976
	椿ヶ花	534.5	296.5	2013	2005
	臼杵	498.5	495.0	2004	1976

大分県	犬飼	471.5	407.0	2004	1976
	竹田	435.5	329.0	1998	1976
佐賀県 (4)	伊万里	283.5	220.0	1985	1976
	嬉野	350.5	264.0	2001	1977
	白石	275.5	214.5	2013	1976
	川副	267.0	164.0	2016	2003
熊本県 (5)	鹿北	283.0	249.0	1981	1976
	南小国	358.5	227.0	1981	1976
	阿蘇乙姫	353.0	288.5	2016	1978
	宇土	225.5	208.5	2016	2006
	本渡	265.5	243.0	1998	1976
長崎県 (8)	芦辺	259.5	232.0	2011	1977
	石田	251.5	218.0	2011	2003
	小值賀	274.5	222.5	2011	2003
	長浦岳	341.0	333.0	1981	1976
	大村	261.5	241.0	2013	1976
	島原	259.0	231.0	2016	2006
	口之津	252.5	230.0	2016	1976
	野母崎	274.5	220.5	2016	1991

別紙

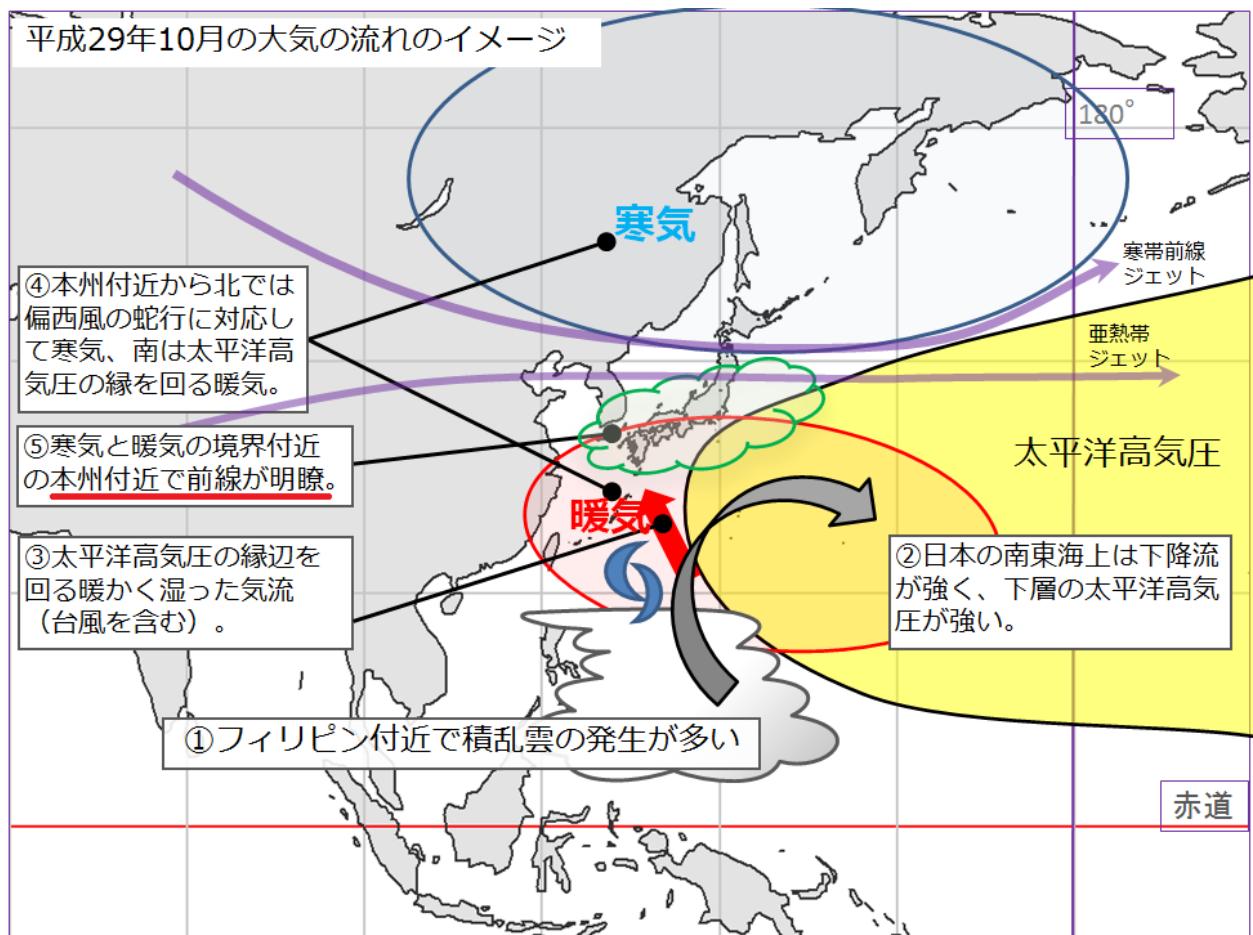
ウ 10月の降水量（地域平均平年比）の多い記録の更新

地方名	2017年10月の値（%）	これまでの記録（%）
九州北部地方	343	260（1951年）

注) 地域平均平年差（比）の統計開始年は1946年です。

注) 九州北部地方の地域平均平年差（比）とは、官署等のうち、17地点（萩・下関・山口・厳原・平戸・福岡・飯塚・佐世保・佐賀・日田・大分・長崎・熊本・阿蘇山・人吉・牛深・福江）の観測値の平年差（比）を平均したものです。

エ 月降水量が多くなった要因の模式図



フィリピン付近の積乱雲の活動が活発になり、この海域で上昇した空気が日本の南東海上で下降気流をもたらし、この付近にある太平洋高気圧の勢力を強め、九州北部地方（山口県を含む）には南から暖かく湿った空気が入りやすくなりました。このため、前線が明瞭となり低気圧の活動が活発となったこと、および台風が影響したことが要因と考えられます。